

ガビチヨウの一新亜種—孟連亜種

鄭宝賚・楊嵐

(中国科学院昆明動物研究所)

訳 福井和二

ガビチヨウ (*Garrulax canorus* (Linnaeus)) はわが国のガビチヨウ属の中でも分布の広い種である。筆者は最近、雲南省無量山以西でもともと大陸で記録されている基準亜種と異なるガビチヨウを確認し、新亜種、孟連亜種 *Garrulax canorus mengliensis* とした。

標準標本；雄成鳥 (採集 No.620672) 1962年12月17日、雲南省南部孟連 (標高940m) において採集。

副標準標本；雌成鳥 (採集 No.587) 1960年1月17日、雲南省西双版纳勐腊县易武 (標高900m) 採集。

正副標準標本は共に中国科学院昆明動物研究所鳥類標本室に収蔵されている。

特徴の識別；成鳥で同一季節に採集されたガビチヨウ (*G. c. canorus*) の標本と比較し、頭、頸、上体、及び両翼表面がオリーブ色、鶯色のぼかし*1は無い、耳羽はオリーブ褐色、鶯色ではない、頸側、頬、喉、上胸および両脇、両腿羽と肛周は均一に淡い肌色、黄色がかった鶯色ではない、頭頂と後頭の縦紋ははっきりとしている、喉から胸への縦紋は繊細で美しく明確、腹は淡い灰色である。

羽色は海南亜種と似ており、ただ後者は喉、胸、両脇および肛周は皮膚黄色、僅かに鶯色を帯びている。この亜種に対して体重と翼長がやや小さい。上述3亜種の標本による測定値を表に示す。

各亜種成鳥標本の測定値

亜種名	性別	体重 g	体長 mm	嘴峰 mm	翼長 mm	尾長 mm	跗蹠 mm
<i>G.c.mengliensis</i>	♂♂(6)	61.7 (54~70)	231.5 (206~250)	21.3 (20~22)	90.8 (87.5~94)	99.3 (95~102)	34.9 (33~36)
	♀ (1)	65	232	21	92	102	35
	(2)	69, 70	219, 223	21, 21	87, 92	99, 99	34, 34
<i>G.c.canorus</i>	♂♂(8)	67.6 (64~73)	227.3 (210~248)	6♂21.2 (20~23)	91.8 (87~96)	103.6 (98~107)	35.8 (35~37)
	♀♀(7)	64.9 (57~76)	225.6 (215~240)	20.8 (19.5~21)	89.5 (87~95)	64.9 (57~70)	34.9 (33~36)
	♀♀(2)	60, 66	210, 220	20, 21	88, 89	90, 99	32, 34
<i>G.c.owstoni</i>	♂♂(4)	54, 54 55, 56	220, 221 225, 230	18.5, 19.5 19.5, 20	82, 84 86.5, 87	90, 93 93, 99	32.5, 33.5 34, 34.5
	♀♀(4)	48, 50 57, 60	212, 220 229, 232	18.5, 19 19.5, 20	78, 82.5 83, 89	88, 89.5 93.5, 89.5	31.5, 32.5 34.5, 34.5

幼鳥；本亜種の幼鳥は成鳥に比較して羽色がやや濃い、赤みがかった鶯色縦斑のぼかし*1がない。

分類討論；ガビチヨウの分布は広く甘肅省、陝西省南部以東、以南の西南地区から沿海に至る一帯、台湾、海南島を含み、さらにラオスとベトナム北部に及ぶ。分布域の東部、すなわち華東

一帯のものは羽色の鶯色が濃く、低緯度、低経度になるほど、鶯色は後退してゆき、分布域の西縁東経約120°以西、北緯24°40'以南に本亜種が現われ、羽色の赤みがかった鶯色が無くなり、東部の種とは明確に区別できる。

La Touche(1921)は河口*2において採取された標本を鑑定し、*G. c. yunnanensis*とした。われわれの観察によれば、雲南省中部の景東、東南部の屏辺、河口、富寧および貴州省西南部の安龍一帯で採集された標本(3♂♂, 3♀♀, 2♀♀)の羽色と、ガビチョウ *G. c. canorus* の羽色の間にあり、上体から両翼表面のオリーブ色が強く、鶯色が浅いという点、鄭作新らの観察(1960)結果と一致する。しかし、喉、胸にいたる肌色の濃淡の差、鶯色のぼかし¹の多少など、この現象は、標本の経時的変化によるものではないであろう。見るところによると、収蔵されている同一地区のガビチョウ *G. c. canorus* は新旧採取の標本によらず、そろって鶯色に富んでいる。腹部の肌色も比較して深い。このことから *G. c. yunnanensis* は *G. c. canorus* と *G. c. mengliensis* の中間に位置するものといえる。無量山と哀牢山の北麓、元江から南盤江にいたる一帯は、本亜種と基準亜種 *G. c. canorus* が共に生息する中間地帯で、本亜種は無量山以西地区に分布する。

生態；この亜種の生活習性は基準亜種 *G. c. canorus* に似ている、耕作地近くの山麓、谷間、田園の灌木林のなかに生息し、朝夕盛んに活動し、雌雄が互いに鳴き交わす。鳴き声は美しく艶やかである。1, 2, 4, 6月に採集された6羽の剖検による胃内容から、ずれも、昆虫が見られ、鞘翅目4, その他の昆虫2, ほかにいずれも植物種子が見られた。

分布；雲南省西部の潞西、および西南部の瀾滄、孟連、勐海、孟腊、江城等の地である。

調べた標本 採集地、採集年月を下に示す。

G. c. mangliensis 6♂♂雲南、潞西1962IV, 芒市1962IV, 孟連1962XI, 勐海1960II, 1♀♀雲南、孟臘1960I, 2♀♀雲南、孟連1960I, 瀾滄1960II, 1幼♂雲南、江城1972VI, 1幼♀雲南、江城1972VI。

G. c. canorus 8♂♂雲南、綏江1975IV, VI 塩津1963VI, 貴州1963X, 広西1979X, 広東1959VIII, XI, 13♀♀雲南、綏江1957IV, 塩津1953X, 貴州1965XI, 広東1959VIII, XI, 1960IX, 3♀♀雲南、綏江1975VI, 貴州1963IX-X, 4幼♂♂貴州1963VIII-IX, 広東1959VIII, 2幼♀♀貴州1963VIII-IX。

G. c. owstoni 4♂♂海南島1963IV, 1978VI, 4♀♀海南島I-II, VII, 1979VII。

訳者注

*1 中国語では渲染と書かれており、これは水墨画の手法の一つで、ある線から次第に墨が薄くなっていく描き方をいう。染色にもこの手法が用いられる。

*2 河口；雲南省南部、ベトナムとの国境にある河口瑶族自治县をさす。